

「埼玉の津」はいずこに

先月、「万葉集」収録の行田市に関係すると推測されている歌4首を紹介しましたが、そこに歌われている「小埼の沼」や「埼玉の津」（津は当時の港）はどこにあったのでしょうか。

「小埼の沼」や「埼玉の津」の場所については、江戸時代から諸説ありますが、宝暦3年（1753）に忍城主阿部正允が埼玉地区にある小埼沼こそが「小埼の沼」で、「埼玉の津」があった入り江の名残であるとして、万葉歌碑が建立されました。以降、その説が有力となり、後に埼玉県指定旧跡「万葉遺跡・小埼沼」に指定され、現在に至っています。

しかしながら、約20年程前にこの小埼沼の脇で水路工事が行われた際、関東ローム層が確認され、この場所がかつて台地の上であったことが明らかになりました。同じ台地上の約650メートル北方の粗大ごみ処理場付近に広がる小針遺跡で



埼玉県指定旧跡「万葉遺跡・小埼沼」

は、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が多数検出されており、平安時代以前は、この地上が比較的乾いた土地であったと推測されます。つまり、「万葉集」が編さんされた奈良時代ごろには、現在の小埼沼周辺は、沼や港が存在するような低湿地ではなかったと推測されるのです。

行田市周辺の加須低地と呼ばれる地域は、台地が徐々に地盤沈下し、河川の氾濫によって地中に埋没して低地化した地域です。平安時代には台地上であった小埼沼周辺も、その後埋没して低湿地化し、江戸時代には小埼沼が形成されていたと推測されます。

それでは、「小埼の沼」や「埼玉の津」はいったいどこにあったのでしょうか。行田みなみ産業団地付近に広がる築道下遺跡が港湾遺跡である可能性が指摘されていることから、ここが「埼玉の津」ではないかとも考えられています。ですが、定かではありません。謎はまだ解明されてはいないのです。

（文化財保護課 中島洋一）

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



こぜにちゃんが行く!

てっぼうやまこふん 鉄砲山古墳

今日は、埼玉古墳群内で三番目に大きい鉄砲山古墳を紹介するよ。

大正時代までは「御風呂山」と呼ばれていた鉄砲山古墳は、忍藩の砲術練習場だったことから、昭和10年代に今の名称になったんだ。現在、古墳の発掘調査が行われているけど、全国的にも貴重な発見があったよ。それは、三重目の堀と砲術訓練を行った射撃場が見つかったこと。古墳時代から江戸時代までの遺構が同時に見つかるなんて、とてもすごいことなんだ！皆さん、ぜひ訪れて、歴史ロマンあふれる鉄砲山古墳の魅力に触れてみてくださいね。

今月の表紙

1月11日、産業文化会館ホールで「平成27年行田市新成人を祝う会」が行われました。

華やかな振袖やスーツに身を包み、この式典に参加した新成人は770人。会場では、中学時代を写真で振り返るスライドショーの上映や豪華賞品が当たる抽選会が実施されました。新成人は旧友と懐かしい話をしながら、楽しいひとときを過ごしているようでした。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

